

だがしや楽校 @ 第 13 回 環境フェアつるおか 2011

日時：2011 年 9 月 25 日（日）9:30～16:00

会場：小真木原体育館（山形県鶴岡市小真木原町 2-1）

2011 年 9 月 25 日（日曜日）鶴岡の天気：晴れ

【だがしや楽校 @ 第 13 回環境フェアつるおか 2011】

毎年恒例、山形県鶴岡市（小真木原体育館）にて今年も、第 13 回“環境フェアつるおか 2011”（主催：環境つるおか推進協議会／鶴岡市 共催：山形県地球温暖化防止活動推進センター）が開かれました。

今年のテーマは“節電は一人ひとりの意識から ～本当に必要ですかそのあかり～”です。

このテーマについては、主催者である環境つるおか推進協議会の会長で、鶴岡工業高等専門学校の名誉教授でもある小谷卓さんが開会式の挨拶で述べましたが、東日本大震災によって、“環境フェアつるおか”の意味・意義も深まったと言えます。

これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄という社会は、私たちが住んでいる地球環境に大きな影響を与えました。

大量生産・大量消費・大量廃棄という社会は、また、限りある地球のエネルギー資源を浪費し続けてきました。しかも、それでも「エネルギーは足りない」ということで、人間は原子力エネルギーにまで手を出してしまいました。その結果、東日本大震災により、福島第一原発事故が発生しました。しかしこれは、原子力エネルギーにまで手を出した『人間による災害』であります。

今回の“環境フェアつるおか”は、環境問題啓発に留まらず、人はなぜ原子力エネルギーにまで手を出したのか、というエネルギー問題を考える場にもなりました。

今回の原発事故は、私たちの「電気は無限に使えるモノ」という誤った知識がもたらした、と言えます。もちろん、国もエネルギー政策の過ちもありますが、大量に電気を使い続けている私たちにも過ちがあったのです。電気を有効に使用すれば、「原子力発電は不要である」という説を唱える人がいるほどです。

それで、今回の“環境フェアつるおか”のテーマを“節電”にしたのです。私たちには、これまでの浪費や無駄なことを点検し、ライフスタイル（生活様式）を見直すことが求められています。

加えて、東日本大震災は「命」の大切さを学ぶきっかけになりました。

さらに、日本人が大切にしてきた「支え合う」「助け合う」「励まし合う」ことをもう一度見つめ直し、日本人の良さを発揮する機会にもなっています。

今回の“環境フェアつるおか”でも、たくさんの団体や企業が出展しましたが、その中には“だがしや楽校”（公益のふるさと創り鶴岡・だがしや楽校だがしや倶楽部）が入っています。NPO 法人公益のふるさと創り鶴岡は“環境フェアつるおか”の主要なメンバーとして、協賛団体にもなっております。

お金をかけずに自分をみせる“だがしや楽校”は“環境フェアつるおか”の趣旨に共通します。それは、どういうことでしょうか。「自分をみせる」ということは、自分を見つめ直すことから始まります。自分を見つめ直すとは、ライフスタイル（生活様式）を見直すことでもあるのです。

午前9時30分。エントランスにて開会式が行われました。

はじめに主催者挨拶として、鶴岡市の榎本政規市長（写真左）と小谷さん（写真右）が挨拶されました。



続いて、環境かるた・グリーンガーデン・マイバッグ・クラゲイラストでの入賞者に対する表彰が行われました。



写真は、グリーンガーデンの最優秀賞の表彰です。

また、こども環境かるたの最優秀賞の作品をご紹介します。

表彰の後は、こちらも毎年恒例、鶴岡市立第四中学校吹奏楽部による記念演奏が行われました。今回も見事な演奏でした。



それでは、出展ブースをご紹介します。

▽企業・団体の出展



環境に取り組む企業や団体による出展コーナーです。特に上の2つの写真は、今回はじめて設けられた“節電ゾーン”です。下の左の写真は、畳屋さんの出展ブースです。



▽鶴岡市立加茂水族館



クラゲでお馴染みの加茂水族館では、クラゲ水槽展示と、日本海の磯辺に住んでいる生き物にタッチできるプールを設置しました。子どもたちが触れているのは、ヒトデなどです。

▽ザリガニ釣り



▽自転車タクシー

(NPO法人愚山会)



▽らくがき

(山形県自動車販売店リサイクルセンター)



▽山王マルシェ

だがしや楽校
だがしや倶楽部
がある山王商店
街の一角に、地
域の特産品など
を販売する“山



王マルシェ”があります。この日は、梨などの果物やとちもちを販売しています。



▽コーヒー屋さん

山王マルシェと同じブースには、美味しいコーヒー屋さんもありました。自家焙煎にこだわるSさんのお店です。



▽リサイクル工作（庄内総合支庁・環境科学研究センター）



紙とんぼなどの工作ができます。また、今年も牛乳パックによるコースターで遊ぶことができました。

▽マイはし（竹はし）づくり体験（丸沼老人クラブ）



小学4年生からの参加にしました。

ナイフを上手に使いえないお子さんが多いとか。でも、本当ならナイフの正しい使い方を教えることが大切です。「危ないから」と言って、ナイフと触れ合う機会を奪う方が、危ないです。

▽マイバッグづくり （鶴岡市リサイクル推進課）



▽リサイクル鉢づくり （鶴岡市リサイクル推進課）



いずれも毎年恒例のブースで、大勢の子どもたちが取り組んでいました。

また、写真から注目していただきたいのは、だかしや楽校の屋台形式であることです。

こんなところからも、鶴岡市での“だがしや楽校”の浸透ぶりをうかがい知ることができます。

▽環境かるた大会（鶴岡市ボランティア連絡協議会）



昨年は山形大学農学部（森の学校）のブースで開かれた環境かるた大会です。今回は鶴岡市ボランティア連絡協議会としての出展です。

続いて、鶴岡での“だがしや楽校”縁のブースをご紹介します。

▽びっくりエコ実験室（鶴岡工業高等専門学校）



人エイクラ（写真左）・手回し発電（写真右）など、今年も多彩なエコ実験が体験できました。

▽森の学校（山形大学農学部）



枝の切り株に松ぼっくりなどを付けてアクセサリーを作る木エクラフトです。



山形大学農学部では、東日本大震災復興支援ボランティア・プロジェクト（走れ！！わあのチャリ）活動紹介と支援協力のためのチャリティーグッズ販売（写真）や、手作り炭の販売も行っていました。

それでは“だがしや楽校”をご紹介します。

▼プラバンアクセサリー



お馴染みプラバンは、要らなくなった透明なプラスチックプレートの再利用としても注目です。



▼牛乳パックで小物入れづくり



小さなお子さんにはちょっと難しかったかもしれませんが、逆に熱心に取り組むお子さんがいて、おもしろいおみせになりました。



▼紙芝居

すっかりお馴染みになった創作紙芝居劇団“だだちゃめ”の中村さんによる紙芝居です。



はじめに駄菓子を買ってもらった後、なぞなぞ・クイズで紙芝居が始まりました。



三嶋大社と同様、鶴岡でも“魔法使いサリー”を当てたのは、やっぱりおかあさんでした。

紙芝居を観ていた子どもたちには、その後“桃太郎”がどうなったのか、創作してもらい、発表していただきました。大勢の人が注目した紙芝居でした。



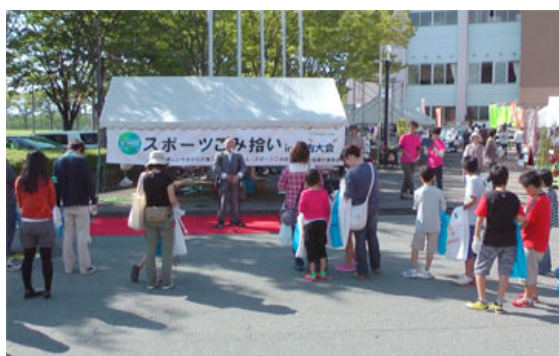
▼かえっこバザール



家庭で不要になったおもちゃを持って来ていただき、ほしいおもちゃと交換できるという“かえっこバザール”こそが、だがしや楽校だがしや倶楽部が中心になって展開した“だがしや楽校”に於ける被災地・被災者・避難者支援活動の原点です。

▼スポーツごみ拾い

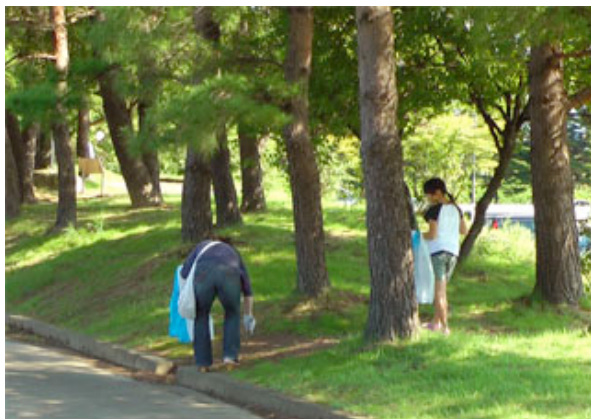
山形県庄内地方では、昨年（2010 年）から開催している“スポーツごみ拾い”。昨年の“環境フェアつるおか”でも開催しましたので、今回が第2回の“スポーツごみ拾い in 環境フェア”（主催：美しいやまがたの海プラットフォーム・スポーツごみ拾い in 庄内大会実行委員会）です。



開会式では選手宣誓があり、「ごみ拾いはスポーツだ！」のかけ声で競技開始です。



選手たちは、競技会場の小真木原公園内を歩き回り、ゴミを拾っていきます。拾ったゴミは3種類に分別しながら、袋に入れます。



1時間で競技終了。ゴミを計量します。そして、結果発表を待ちます。



表彰式では出場チームに各賞が贈られました。写真は第1位を獲得したチームへの表彰です。



そして、“美しいやまがたの海プラットフォーム・スポーツごみ拾い in 庄内大会実行委員会”委員長の小谷卓さんから講評と閉会の挨拶があり、大会は終了しました。

以上、“だがしや楽校”と“スポーツごみ拾い”を中心に、第13回“環境フェアつるおか 2011”の様子をご紹介しましたが、毎年“環境フェアつるおか”を取材して思うのは、「なんでもあり」の“だがしや楽校”が、環境問題への取り組みとしても活用できることです。

高度経済社会によって失われた人と人とのつながり・地域の絆を取り戻すという意味も持っている“だがしや楽校”は、高度経済社会によって失われつつある地球環境を守るためにも活用できるのです。

また、今回の“環境フェアつるおか”を通して、鶴岡での“だがしや楽校”の浸透ぶりを再確認できたことも、大きな収穫でした。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター